# 第４回　南三陸町震災復興計画推進会議

とき　平成２５年１２月１６日（月）
１８：００～２０：００
ところ　南三陸町志津川保健センター
２階会議室

次　　第

１　開　　会
２　挨　　拶
３　会　　議
（１）会議の目的・進め方に関する説明
（２）「魅力の活用方法」についての話し合い・発表
（３）とりまとめ
４　事務連絡
５　閉　　会

（資料目次）


・第３回推進会議結果のまとめ　１ページ
・第４回推進会議のテーマ　11 ページ
・参考事例　14 ページ

# 1.第３回推進会議結果のまとめ

11月11日（月）に行われた第３回南三陸町復興計画推進会議のグループ討議結果をご報告します。今回は、グループＣ、グループＢ，グループＡの順に発表がありました。

## 1. 各グループの討議結果

### １）グループＣの発表内容（要旨）

1. 暮らし、住まう、食す
- 自分の暮らす城を構築できて心のゆとりができ外から来る人をもてなせる。
- 今後、災害公営や防集事業で高台に移っても、コミュニティがきっちりつながる仕組みづくりが大事である。
- 食に関しては、海が豊かなので海の幸をきっちり大事にしていく。

2. 自然、風景、歴史
- 町境が分水嶺になっており、町の自然豊かな森で育まれた水が川を伝って海に流れていくという地形になっており、アドバンテージとして高い。
- 湾内に流れる水が豊かな魚や貝など生産物にもつながるので、海と山がつながるコンパクトな地形を大事にしていく。
- 海に携わる方々と森で林業を営まれている方々が、ブナの木を植林するというつながりを持っており、海と山を大事にしてきた文化があった。
- 子供のころの原体験として記憶に残っているものとして「志津川中学からの海を望むきれいな夜景、神割崎、うたちゃん橋、伊里前の神社からの街並み」がある。
- 文化という視点では、「志津川の夏祭り、入谷の9月15日に開催される定例のお祭り。志津川湾の夏祭り、七福神祭り」がある。

3. なりわい、つながり、人づくり
- 歌津では、海友会という漁師のＯＢ約７０人でつくる組織により民泊と体験学習が営まれていた。生活の基盤ができた段階でその組織を復活させ、今後の人づくり、つながりづくりにつなげたい。
- 芝刈りとか維持管理をすれば無料で施設が使える仕組みづくりが大事である。

4. その他
- 震災で壊れた松原海岸を海の遺構として残してほしい。
- Ｕターン、Ｉターンの仕組みを作り、少しずつ積み上げてリピーターを増やす。
- 海と山が一体となった地形、子供のころに体験した南三陸やその風景、昔、子供のころにあったお祭りをきっちり残していきたい。

（注）朱書きは事務局がキーワードと考えたものです。

**第３回推進会議南三陸の魅力書き込みシート<グループＣ>**

**1. 暮らし、住まう、食すなど**

・男(みんな)の城（キチンとしたベースキャンプ）（ができて人をもてなせる）
・みんなの町⇔南三陸町
・どのような方も暮らせる公営住宅
　公営住宅⇔福祉避難所（隣組）

**2. 自然、風景、歴史文化など**

・地形（分水嶺の町）
・志津川湾内は希少価値生物宝庫　海と山の一体化、安心と安全
・夏祭り（七福神祭り）、入谷の祭り
・自然がコンパクトにまとまっている
・震災前の情景の再発見
・植林（ブナの木）①
・夢に出てくる情景（Ｒ45より海に向かう景色：黒崎）②
・志津川湾夏祭り⇔荒嶋、海上③
・「これぞ、南三陸の景色」
　A：志津川中から海/B：うたちゃん橋/C：神割崎/D：伊里前神社から市外
　（※①～③、A～Dの位置は魅力書き込みマップを参照）
・地名の魅力（津、志津川）

**3. なりわい、つながり、人など**

・原住民の生活→必要最小限の充足（医、職、自由）
・体験学習（民泊での農体験、漁体験）/ふるさと学習会（体験）
・グリーンツーリズム→農　海友会→漁（地元の子供たちにも体験させたい）
・勤労をうまく使う（草刈りをするとゲートボール場使用OK）
・定年後の方が働ける（ハーフタイム）システム
・海友会（職のつながりで出来ること60～73名）（小地域での良さを掘り起こす）
・ダイビング→民泊　・イベント交流（スポーツ、図書館）
・自然体験が身近で出来る（サケの養殖）
・「娯楽」が必要（グランドゴルフetc）
・例：分炭、木炭（エネルギー活用）

**4. その他**

・震災で壊れたモノ残す覚悟（松原海岸）
・志津川高校を商業（実業）にＨ．Ｓ
・遺構は遺構として、残せるものは残す
・地域の整備を通しての地域貢献→魅力の再発掘
・Ｕターン、Ｉターンの仕組み作り　⇔少しずつ積み上げてリピーターを増やす

# 第３回推進会議南三陸の魅力書き込みマップ<グループC>

## ２）グループＢの発表内容（要旨）

1. 暮らし、住まう、食す

- 前は、お茶っこ飲み会だとか自家製の漬物持ってきてみんなでコミュニケーションをとっていた。
- 水産物、海の幸などの資源に恵まれている。
- 南三陸はちょうどいいサイズで、山、川、海、里山のバランスがいい。
- 恵まれた資源を活かした食べ物として、「海苔の福耳、タラバーガー」など意外と地元の方が知らずに外の人が知っているものもある。
- 有名なキラキラ丼もあるし、「(今は食べられないが) ときわ屋さんの冷やし中華」がとてもおいしかった。地元に愛され根付いていた食があった。

2. 自然、風景、歴史

- もともとやっていた夏祭り、灯籠流しを復活させたい。
- 海水浴場の復活を望む。
- 今まで伝わってきた文化を子供達や将来に向かって届けていくのも大事だ。
- 津波は非常に嫌だが、逆に言うと海というのが魅力になっていた。
- 食のところにあるメカブなどの地元産が大事で、学校給食でもこれは戸倉産ですと紹介しており、子供もここで採れたんだ、というのを感じている。

3. なりわい、つながり、人

- 松原公園は子供が部活動をしたり、おじいちゃん、おばあちゃんがゲートボールをしたり、小さなお子さんからお年寄りまでが一緒に集える場所と文化があったのが大きい魅力だった。
- お茶っこ飲みなどのつながり、復興市など新しい祭りやイベント、いろんな地元の伝統行事、志津川の夏祭り、入谷の秋祭りなど伝統をつちかってきたものがある。
- 入谷に地元の食材や地元を売り出していこうというアイディアマンがいた。
- 外から南三陸に来た人のつながりということで「婿（むこ）の会」というのがあった。もともとあった地域のつながりに加え、いろんな外の方のつながり、外から支援できている人を受け入れる土壌がある。
- 南三陸の人柄の良さと方言がよい。鮭のように人にも戻ってきてほしい。

4. その他

- 震災前の町の姿を何らかの形で残していきたい。たとえばヴァーチャルでも良い。
- 松原公園など運動する場所が今無いのが課題である。
- 魚竜館、松原公園、潮風カフェなどを復活してほしい。

## 第３回推進会議南三陸の魅力書き込みシート<グループＢ>

### 1. 暮らし、住まう、食すなど

・お茶っこ飲み（自家製の漬物で）　・水産業、海の幸（豊富な資源種類）
・落ち着いた住環境（四季に応じた）　・町の規模がちょうどいいサイズ
・自給自足が可能　・山、川、海のバランスが良い　・里山
・ヤマウチさんのタラバーガー/しおさいさんの黒酢からあげ/のりの福耳
・おいしかったときわ屋さんの冷やし中華→キラキラ丼にもつながる
・めかぶなど地元の食を大事に
（イヤなことと表裏一体の魅力）
（魅力）自分で生産する⇔（イヤ）買い物が不便
（魅力）高校、病院が揃っている⇔職場は？

### 2. 自然、風景、歴史文化など

・伝承文化（子供たちに伝えていくべきもの）
・自然の恵み（生かされている私たち）
・夏祭りの復活/海水浴場の復活
・役場の先、海が開けたところの景色
（イヤなことと表裏一体の魅力）
（魅力）海がある⇔（イヤ）津波

### 3. なりわい、つながり、人など

＜グループＢ＞
・子供～お年寄りまで集える場所/地元意識が高い（助け合い）（地域で見守る）
・地域特有のつながり、コミュニケーション
・ムコの会（志津川以外の人）　・教育活動（PTA）（子供のために）
・子供の学習環境（ちょうど良い種類、サイズ）
・復興市、地元の伝統行事/入谷などに発明家が多い
・人柄の良さ、ほっとする方言がある
・外から来た人が（快く）受け入れてもらえる土壌がある
（イヤなことと表裏一体の魅力）
（魅力）人と人とのつながりが濃い⇔（イヤ）おせっかい

### 4. その他

・（模型やヴァーチャルなもので良いので）震災前の町の形も残したい
・運動する場所が欲しい（今は震災前の半分の運動量になっている）
・鮭が戻るように、人にも南三陸に戻ってきてほしい

第３回推進会議南三陸の魅力書き込みマップ＜グループB＞
田東山からの眺め
田東山（ツツジ）
入谷の神社
（木、石、神社）
おいしいくだもの（入谷）
魚竜館
平成の森
魚竜化石
ひころの里
国道398号
国道45号
モアイ像
南三陸
町役場
はまゆり大橋
汐風カフェ
若い人から年配の人が集う松原公園
椿島
志津川湾
神割崎
国道45号
国道398号
神割崎の波
凡　例
1:50,000
宮城県本吉郡南三陸町

３）グループＡの発表内容（要旨）

1. 暮らし、住まう、食す

- 多くの家にあり生活の中心になっていた「井戸」を防災のためにも復活したい。
- 南三陸町共通のたらすもづ（誰もが食べたお母さんが作ってくれたおやき）やめかぶ、南三陸町の風情となる魚屋さんの軒につるされたゆでだこ。
- 入谷のほうで多い自然食、イチジクのワイン煮、こんにゃく、干し柿、味噌、漬物など手作りの文化がある。また、入谷のかやぶきの屋敷も魅力がある。
- 用は無くても隣にお茶飲みに行き、漬物食べて町の話をして、孫の話をするお茶っこ文化により、地域のコミュニケーションが成りたっていた。
- 30分ぐらいのエリアの中で森、川、海にさわれる町、森里海のつながりが暮らしながら学べることが南三陸町ならの良さと思う。

2. 自然、風景、歴史

- 冬の川を上る鮭を見る子供たちの姿、春の伊里前川を上る白魚を見る子供の姿など風景と人間が一体となっている光景や川遊び、シロサギが川に佇む風景、長須賀海岸、田束山、魚竜太鼓、岬と入り江が交互に見えるリアス地形などが魅力である。
- ガラスの浮き球など、美術品のように美しい道具がある。
- 町には椿島があるが、昔は椿の油締めなど椿と関係する文化があった。
- 本浜はもともと浜。もっと先は沖の須賀で海。これから盛土をする汐見、タコがひっかかっていたタコ沢など先人が表した前の津波、教訓を受け継ぐ必要がある。
- 潮風が香る町。海の生き物を「海の友達がいるよ」と発信していきたい。

3. なりわい、つながり、人

- おさかな通りで季節ごとに祭をやり、協力していた中学生が避難所生活を支えた。
- 知らない人に、「あんだどこからきたのっしゃ」という声が自然とかかる町だった。
- 町を一度離れてもまた戻ってくる人間を堂々と育てる鮭的人材育成をする。
- 五～六千円でたくさんの船盛が食べられる民宿を復活したい。

4. その他

- 誰かが方言で話してくれる会議は話しやすくなるし、震災直後に方言を聞いて少し心が安らいだので、南三陸町の方言を活かしていきたい。
- 漁師さんの紐の括り方などの知恵とか工夫、この南三陸町のことを網羅する町民憲章、森、里、海、人の命全てを学べることを大事にしたい。
- お父さんたちの世代が裸で遊んだ小松原などの原風景を今の子供達に残す。
- 松原の壊れた防潮堤、海側に蘇った磯を合わせて多くのものを物語る遺構となる。
- 前に、篝火祭りをしていたとても美しい曲線の中橋の復活を望む

## 第３回推進会議南三陸の魅力書き込みシート＜グループＡ＞

### 1. 暮らし、住まう、食すなど

くらし

食す

住まう

・おさかな通り/・蔵造りの屋敷（五日町、十日町）
・井戸（防災のため復活している傾向/・かやぶきの屋敷
・イチジク（ワイン、てんぷら）/・こんにゃく
・たらすもづ/・めかぶ（丼にして売ってほしい）
・軒先に吊るしたゆでだこ/・入谷のおまんじゅう/・干し柿/・みそ
・漬物/・自然食品（ふき、いちじく（ワイン、てんぷら））
・触れる森川海が近くにあった・森里海の連関学を暮しながら学べる
・お茶っこ文化（入谷が多い）

### 2. 自然、風景、歴史文化など

自然

道具･文化

風景

・冬の川を上る鮭を見る子供たち/・春の伊里前川を上るシラウオ
・橋の欄干に留まっているカモメ/・八幡川にたたずむ白サギ
・川遊び/・長須賀海岸（海水浴場）
・田束山（修行僧、ツツジ）/・自然の水（飲める）
・ガラスの浮き玉・いしゃり/・椿島と椿文化　獅子踊り（戸倉）
・お茶会（山頂で）/・魚竜ダイコ
・リアス式の地形（岬と入り江が交互にある）
・地名に刻まれた町の歴史（本浜、汐見、田子沢、残舎、大船、三人立、廻館、etc）→ジオパークにできる地域
・海の友達（ダンゴウオ、ウミクワガタ、クチバシカジカ、クモヒトデ）

### 3. なりわい、つながり、人など

なりわい
つながり

祭

・サケの稚魚の放流を学ぶ子供たち（地域を知る機会）
・季節毎の催し物に協力する中学生（役割）→鮭的人材育成
・小さい港町ならではの声の掛け合い
・津波に負けなかった椿
・昔ながらの伝統祭り（歌津：こいこい祭り、入谷：うちばやし）
・かがり火まつり/・天狗と歩く秋の祭りの稚児行列/・トコヤッサイ

### 4. その他

・方言のあったかみ（高齢者の活躍の場）
　→方言は津波でも流されない
・漁師の工夫、知恵/・町民憲章に刻んだ想い/・神棚を祀る精神
・様々な命を学べるところ

第３回推進会議南三陸の魅力書き込みマップ＜グループＡ＞
田束山（ツツジ）
平成の森
魚竜化石
ひころの里
中橋のふくらみ
国道398号
国道45号
モアイ像
南三陸
町役場
小松原
東山の桜
椿島
志津川湾
神割崎
絵入りの
壊れた
防潮堤
壊れた
防潮堤
（松原）
↓
よみがえった
磯
国道45号
国道398号
祈りの導線
凡　　例
宮城県本吉郡南三陸町
1:50,000

## 2. 学識者委員・有識者委員の講評ととりまとめ

グループ発表をもとに、学識者委員、有識者委員の皆さんからアドバイスをいただき、次のようにまとめていただきました。

① 平野副委員長

- 今日あげられた魅力は生活している皆さんだからこそ見える「生活景」であり、仮設住宅から出て生活が落ち着いて本当のまちづくりが始まると思う。
- 人間は風景を道から感じるので、これから作る新しいまちの道から皆さんの大事にしている景色が見えるかどうか、行政の方にチェックしてほしい。
- 南三陸に帰りたくなるような郷愁を誘う魅力の情報発信を戦略的にやるべきで、次回のテーマになると思う。
- 皆さんのあげた生活景をもとに上手に戦略を考えるとよいと思う。

② 三浦先生

- 地域の問題を観光で解決するためには、第１次産業の活性化、商業の活性化、環境の改善、高齢の方々を元気にすることが４つの柱となる。
- 今の観光は、８０年代、９０年代と大きく変わり、まちを歩くとか生活を見たいというように変わっているが、南三陸町は、海、山、里山、川の景観、環境、祭の魅力、おさかな通り、蔵などがありまち歩きに適したまちづくりができると感じる。
- 志津川、歌津、戸倉、入谷地区それぞれの魅力を発掘し、仮設住宅の方にも共有しながら一つずつ魅力付けをしていただきたい。

③ 稲葉先生

- お茶っこのみが南三陸の原点と思う。震災前に民泊が盛んな頃、南三陸のおじいちゃん、おばあちゃんに会いたくて泊まっていた子供達だけで来たことがあった。
- 南三陸は自然の風景もいいし食べ物もおいしいが、その良さは、「町の人すべてが話してくれるような温かさ」だと思うし、これで売り出していくのが良いと思う。

④ 宮原委員長

- 平成１４年に学生たちと南三陸町の観光資源調査をやったが、今日の皆さんのお話を伺うと、大切なこと（魅力）を失っていないと思う。
- 皆さんが大事にしていた生活を受け継ぎ、大好きだった町の形を取り戻そうと懸命に動いておられることが改めてわかり、いろいろな人との共有が大事と感じた。
- 南三陸町の「ほっとけない文化」が大きな魅力となっている。
- 次回は、平野先生にいただいたヒントや「鮭のような人材育成」というキーワードをもとに、「(この魅力を）具体にこうしましょう」という話をしていきたい。

## ２.第４回推進会議のテーマ

### （１）テーマ設定の基本的な考え方

第４回推進会議では、第３回推進会議で出た南三陸町の魅力の活用方法を考えます。

町では、今年度中の認定を目指して「(仮称) 観光等に関する復興特区」の申請を準備中であり、可能なものは、その特区申請の計画に盛り込んでいきたいため、「(町外の人が) また行きたい (来たい) と思ってもらう」視点から魅力の活用方法について考え、皆さんができる部分と町など外の団体に支援を受けたい部分を検討します。

第５回推進会議では、第４回会議で出た活用方法と、町などの支援可能性の検討結果を受け、課題の解決方法や役割分担、情報の発信方法等を考え、魅力を活かしたまちづくりプランとしてまとめます。なお、作成したプランは、復興特区申請の計画に盛り込んだり、平成２６年度以降の町の予算などに反映していきたい、と考えています。

第１回目で推進会議のテーマとして提案された「住環境の向上」「働く場を創る」の視点からの検討も第６回目以降の会議で行っていきます。

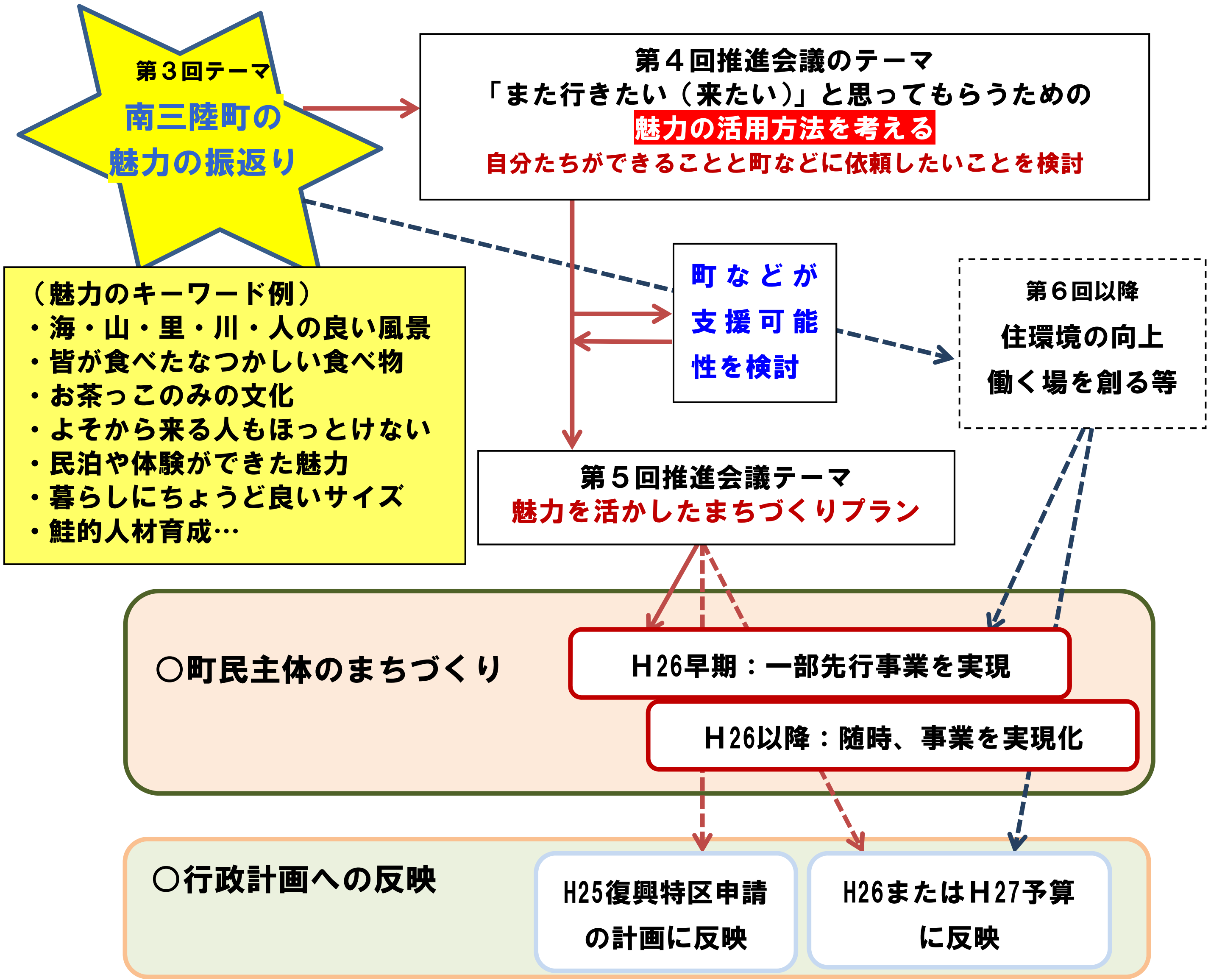



図　推進会議の検討テーマとまちづくりや行政計画への反映イメージ

（２）第４回推進会議の検討テーマ

「また行きたい（来たいと思ってもらう）」ための南三陸町の魅力の活用は、いろいろ考えられますが、現時点で町の観光協会等が案内している観光交流施設や体験学習プログラムにはないもので町民の皆さんが取り組める可能性があり、また、ここ２～３年以内に取り組む必要があるものを優先して検討したいと思います。

① 観光協会がとりあげている観光交流施設や体験学習プログラム

現在、南三陸町観光協会がホームページやパンフレット（名称：ナビマップ）とりあげている観光交流地は以下の通りです。（順不同）

・田束山、荒島、神割崎（神割崎キャンプ場）
・Ｙｅｓ工房、ひころの里、ベイサイドアリーナ
・伊里前福幸商店街、さんさん商店街、タブの木（漁協直売）

なお、このパンフレットでキラキラ丼やモアイスポット等を掲載しています。

また、現在おこなっている体験学習プログラムとして以下を案内しています。

・語り部による学びのプログラム（ポータルセンター）
・漁業を通して海から学ぶ時間（戸倉地区津の宮漁港）
・民泊体験学習（町内の一部の家庭）
・浮き玉がたりと海ごはん（戸倉地区農漁レストラン）
・手ぶらでフィッシング（歌津地区泊浜）
・里山工房で過ごす時間（入谷地区Ｙｅｓ工房でのオクトパス作り体験）

図　南三陸町観光協会発行のパンフレット（南三陸町ナビマップ）

② 第４回推進会議での検討方法

第３回推進会議であげられた魅力をもとに魅力の活用方法、活用のアイデアを考えます。アイデアの段階なので，たくさんの人が好む平凡的・普遍的なものではなく、なるべく個性的で、独創的なアイデアをたくさん考えてください。

また、グループ討議では、各委員がお互いに魅力の活用方法を発表し、魅力の活用シートに整理していきます。その中では、町民の皆さんが自ら行うこと、町や外の力を借りたいことも考えていくことで、テーマごとに具体の検討を進めていきます。

○魅力の活用シートの整理例

| 魅力 | 事業名（愛称） | どのようにする（活用の方法） | 皆さんが自ら行うこと | 町や外の力を借りたいこと |
|---|---|---|---|---|
| *例）たらすもづ*<br> | *たらすもづで縁をもたらすもづ事業* | *① 昔懐かしい食べ物として，民泊での料理体験や農林漁村体験のときのおやつとして提供し、町独自の食として宣伝する。*<br>*② 町内外の洋菓子店とコラボし，お菓子の三ツ星コンテスト等を開催しながら，新たなお菓子として，たらすもづ風のクレープやパンケーキとして売り出す。* | *① 勉強会の実施によるユニークなたらすもづの開発*<br>*② 祭りへの出店・参加* | *① たらすもづのＰＲ*<br>*② 保健所など必要な手続きを教えてほしい*<br>*③ 町から協賛店募集協力依頼*<br>*④ 復興市との共同開催* |
| | | | | |

○グループ討議のまとめかたのイメージ

上記の発表をもとに、魅力活用のアイデアをグループ化し、まとめます。特に、次回の会議で、優先的に具体化の検討をしたい事業に◎をつけます。

**★南三陸町民が提供する「○○な観光」　（グループ○）**

**○海で**
**例）たこ壺オーナー事業**
**……**

**○里で**
**◎例）たらすもづ事業**
**……**

**○仮設住宅で**
**例）お茶っこのみ事業**
**……**

**○町民の皆さんが自ら行うこと**

**○町や外の力を借りたいこと**

## 3．参考事例

### （１）地域が参加する教育旅行による交流・農業活性化（長野県飯田市/南信州観光公社）

１）地域の概況

〇飯田市は南アルプスと中央アルプスに囲まれた長野県南部に位置

（H25.10 人口　１０万３千人）

〇飯田市の８割が森林で農林業が盛んだが、近年農林業が停滞

２）地域の課題と解決への取組み

**地域の課題**

▲観光資源に乏しく宿泊割合が2割に満たない通過型の観光地

▲観光資源が限られる中、南信州の生活や産業を観光に活かす必要

▲農地規模拡大が難しく、高齢化が進む中、農業所得減少、後継者難

**解決への取組み**

〇観光公社を設立し体験型観光を本格的に企画・ＰＲ

〇農家、婦人団体、地域づくり団体が案内、ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ、民泊を受入れ

〇農家の生活・生産活動に体験観光を組込み所得向上、後継者を育成

３）取り組みの内容

南信州観光公社が、地元農家、地域づくり団体、商工業者と教育旅行団体をコーディネートし、「感動体験南信州」と冠をつけた体験プログラムを順次事業化し、現在、「そば打ち、五平餅、田舎料理機織り、草木染、乗馬、酪農、ラフティング、渓流釣り、マウンテンバイク」など**130の体験プログラムで350軒の農家が民泊協力**をしている。

田舎料理体験

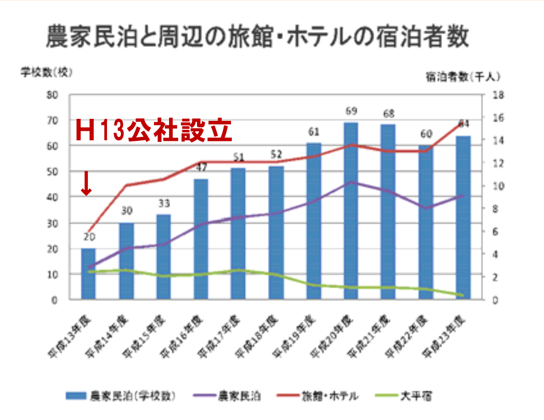
草木染体験

４）取組成果

〇実施後**教育旅行団体が３倍以上に増加した。**（H13：20 校⇒H23：64 校）

〇民泊のほか地元および周辺の**旅館・ホテル宿泊者も増加した。**

〇農家の**収入増、販路拡大、知名度向上に寄与している。**




（資料：住民が共に育てる観光まちづくり事例ホームページ等）

## （2）文化・教育ツーリズムによる地域振興（秋田県仙北市/たざわこ芸術村）

### 1）地域の概況

〇旧田沢湖町（仙北市田沢湖地区）は人口１万４千人で、劇団わらび座の活動拠点

〇温泉とスキーが観光の柱だったが、近年、スキー客が減り冬季観光が低迷

### 2）地域の課題と解決への取組み

**地域の課題**

▲温泉とスキーが観光の柱だがスキー客が減り冬季観光が低迷

▲観光情報発信が弱く観光地の知名度が低い

（出典：仙北市観光振興計画）

**解決への取組み**

〇３０年の歴史のある劇団わらび座への修学旅行生の拡大を図る

〇1996年に芸術と宿泊・温泉・地ビール・工芸・郷土料理、農園の複合施設、たざわこ芸術村がスタート

### 3）取り組みの内容

たざわこ芸術村の中核となるわらび劇場では東北の素材を生かしたミュージカルの制作・上演を行い、また、民族舞踊・太鼓・演劇・健康体操など様々なワークショップも行っている。また、わらび座がソーラン節や農作業を体験する修学旅行を主催している。

ソーラン節体験

農業体験

### 4）取組成果

〇３０年の歴史を持つ修学旅行が発展拡大し、現在、年間 150 校２万人の子どもたちがたざわこ芸術村を訪れている。

〇修学旅行には、周辺農家の協力により農作業体験が組み込まれており、当初の協力農家の数は 15 軒だったが、現在は農家同士で自発的に修学旅行受け入れのネットワークが形成され、700 軒の農家が協力している。

〇わらび座ができた当初は、「よそ者」として地元から一線を置かれていたが、わらび座出演者によるワークショップ、交流会、バックステージ体験、文化講演会、観光物産展等を通した社会貢献により地元と連携が進み、地域おこしに繋がっている。

（資料：劇団わらび座ホームページ等をもとに作成）

### （３）番屋とﾘｱｽ地形を活用し滞在型観光を推進（岩手県田野畑村/NPO体験村･たのはたﾈｯﾄﾜｰｸ）

１）地域の概況

〇岩手県沿岸北部にあり森林面積８割超の臨海型山村（H25.10 人口 3.8 千人）

〇有名な景勝地「北山崎」があるが高速交通体系から遠く通過型観光が主である

２）地域の課題と解決への取組み

**地域の課題**

▲村民所得が県内でも少なく（H23 岩手県資料）、失業率が高い

▲「北山崎」を見るだけの通過型観光のため、観光収入に繋がらない

▲普段は断崖を見上げながらの漁業、番屋の景色の良さに気付かない

**解決への取組み**

〇村主導で修学旅行の誘致や民泊体験の受入協議会設立。(2004年)

〇見る観光から体験する観光への転換を図り、滞在型観光を推進。

〇ｴｺﾂｰﾘｽﾞﾑをやっている外部NPOを招きﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを一新（2009年）

３）取り組みの内容

協議会発足時に考えたプログラムは、わら草履作りやわかめのしゃぶしゃぶ体験などで独自性をPRしづらかったが、北海道知床でエコツーリズムを行っているNPOを招き「料理体験は番屋で行う方が雰囲気がある。どこにでもあるトレッキングでなく200メートルの断崖の遊歩道を歩く方がいい」との助言を受け、「サッパ船(小型磯船)アドベンチャーズ、番屋体験、断崖歩道トレッキング」ができ、成功につながった。

東日本震災によりサッパ船６隻が流出し番屋群が全壊・流出したが、平成２３年7月からサッパ船アドベンチャーズ、断崖自然歩道トレッキングを再開した。番屋群は再生を目指し1口1万円のサポーターと番屋の建築ボランティアを募集している。

サッパ船アドベンチャーズ

４）取組成果

〇プログラム実施により、体験観光参加者が年 442 人（H19 年）から年５千人（H21 年）になり、村の観光収入が約 100 万円から 2000 万円に大幅に増加した。

〇ネイチャーガイドや津波語り部（約 50 人）、体験インストラクター（約 100 人）、民泊受入れや料理体験の手伝いなどで、村民４千人弱のうち 10%近くの人がこのプログラムに参画している。

〇漁師はサッパ船のガイドをすることで年 130 万円の副収入を得られた。

（資料：地域再生計画、H24.3日本交通公社:自然観光資源を活用した復興への取組事例集等）

### （４）地域の課題に取り組み、地域を支える仕組みづくりに成功（宮城県大崎市鳴子地区）

１）地域の概況

○宮城県北部に位置し平成 17 年に広域合併（H25.10 鳴子地区人口 7.1 千人）

○鳴子温泉等観光業が主で森林を活かしたこけし等の工芸と小規模な山間地農業

２）地域の課題と解決への取組み

地域の課題

▲小規模な農業への補助制度の打ち切りや高齢化で営農が困難となる

▲耕作放棄地増加で田園風景を観て湯煙という鳴子の景観喪失の懸念

解決への取組み

○農業で生計が立てられる「地域の食べ手が作り手」を支える仕組みづくり

○農家だけでなく、地域の多くの人が田園風景の良さ等を守るために連携

３）取り組みの内容

平成18年の国の政策転換により小規模農家への支援がなくなり、鳴子地域の620戸の農家の多くが営農困難となり、田園景観が消えることが懸念された。

そのため、鳴子の農業を地域のみんなの力で守っていこうと、農家、旅館やホテルなどの観光業、こけし工人、女性グループ、JA、役所などさまざまな人が集まり、おいしい米の開発と自然乾燥などの農法へこだわりをもって、１俵１万３千円の生産者米価では生計が立てられない米農家に対し、農家の手取り１万８千円を保証する「**地域の食べ手（消費者）が作り手（生産者）を支え、地域の農業とそれに育まれてきた暮らしを守る」という取り組み**を行った。開発された米は「ゆきむすび」としてブランド化に成功し、旅館の料理長や菓子店が米粉を使った４０種のパンや菓子をつくり、木地職人が、おむすびが美味しくなる器を作る等地域に広がった。**評判は東京に広がり、大手おむすびチェーンとの大口契約につながった。**

鳴子の田園景観

おむすびがおいしくなる器

４）取組成果

○地域の**食べ手が作り手を支えるしくみづくりが農業の継続**に繋がった。

○農家を守ることにより、鳴子温泉郷の**美しい田園風景が守られた。**

○米づくりだけでなく、地域の昔ながらの農作業、村の行事、食文化等多くの貴重な知恵・地域の文化を冊子や絵地図にまとめ、**鳴子の文化を町外に幅広く紹介するとともに、若い世代に引き継ぐことができた。**　（資料：大崎市ホームページなどをもとに作成）